

総務委員会

2学期制と3学期制が混在

〈神奈川県横浜市〉

小・中学校での2学期制と3学期制が混在している代表的自治体として、神奈川県横浜市を視察した。

平成18年度には

99%以上が2学期制を導入

横浜市の平成27年度の現況は、2学期制の小学校が342校中315校（全体の92%）、中学校が174校中86校（全体の59%）である。平成16年度に全校での2学期制導入をめざした取り組みをスタートさせ、平成18年度には、小学校の100%、中学校の99%が2学期制に移行した。その狙いは、

- ①授業時数の確保
- ②学びの連続性の確保

③行事など教育活動の見直しにあった。

移行の成果として、「保護者や子どもとじっくり話し合う時間がとれた」（小学校80・2%、中学校59・3%）、「子どもが取り組む課題に学校と家庭で共通理解が深められた」（小学校83・3%、中学校64・8%）などがあげられた。一方、「授業時間の増加」や、「学びの連続性」についての評価は比較的低いものであった。その後数年が過ぎ、3学期制に回歸する学校が増え、冒頭に述べた現状となっている。

それぞれの学期制の良さをふまえて選択

3学期制に戻した学校の主な理由は、「3学期制の方が、特色ある学校教育活動の実態に合っている」「2学期制をとっても、授業時数はさほど増加しない」などである。

現在の横浜市教育委員会の認識は、「2学期制も3学期制もそれぞれ良さがある。学校長が自主性・自立性を発揮して、保護者や地域の意見を聞くなどして、学期制を選択していくことが重要だ」ということである。



横浜市教育委員会で説明を受ける

「2学期制の成果を生かした3学期制」導入

〈武蔵村山市〉

武蔵村山市の小・中学校は2学期制であったが、平成27年度から13校全校が3学期制を導入しており、その理由について伺った。

役割を終えた2学期制

2学期制導入から10年の節目を迎えた平成26年1月、学識経験者・校長会代表・保護者代表で構成された「検討委員会」を設置し、よりよい教育課程のあり方について検討を行った。

2学期制の導入により、始業式や終業式の回数が少なくなり、授業時数の確保が容易になったこと、研究授業を中心とした授業改善が進んだこと、夏季休業期間の弾力的運用、土曜授業

の実施、完全午前5時間制の導入により授業時間の確保ができるようになったことなど、10年間の実施で一定の成果があり、2学期制の役割は終わったとの認識だった。

全校一斉に導入

3学期制の利点としては、新たな目標を持たせる「節目」を年間3回設定することは学校生活の改善に有効である、幼・保・小・中高といった教育活動の一貫した連携を図るためには3学期制にする必要がある、3学期制は日本の風土に適している、等の意見が交わされ、結果として、「2学期制の成果を生かした3学期



阿智村の熊谷村長（右）と、協働活動推進課の近藤課長



説明を受ける総務委員



武蔵村山市役所前で

一人ひとりの人生の質を高める村づくり

〈長野県阿智村〉

長野県阿智村の「住民と行政による自立の村づくり」について視察した。

地域の課題は地域で

地域で解決できる事柄が行政頼みになっている。財政が厳しくなり、地域要望に応えることに限界が来ている。こうした現状認識の下、自治意識が高まり、自治組織再編の必要性が芽生えてきた。再編の理念は、「自治組織と村を対等な立場として位置付け、村の下請けにしない」「地域の課題は自治組織が主体となって取り組む」というものであった。

自治組織の広がり

人生の質を高めている

平成10年、それまでの48集落が6つの地区委員会に再編され、平成15年までに地域づくりの基本となる地区計画が自治会主体で策定された。その背景には、地区公民館を中心とした社会教育活動と、地域づくりをめぐる研修活動が蓄積されていったことがある。そして、各自治組織の行うモデル事業は、自治組織ごとに特色があり、住民のニーズに沿ったものとなっていた。発足後10年経ち、地域での

制」の導入が決定され、平成27年度からスタートしている。武蔵村山市より前に視察した横浜市では、学期制の最終決定者は各学校長となっていたが、武蔵村山市では全小・中学校一斉に導

入されている。これは、学区に関係なく、市内のどの小・中学校でも入学できる選択制となっている代わり、どの学校に行っても受けられる制度は同じであるべきとの考えに基づいている。

自治組織の活動が定着し、自治会相互の連携も生まれきた。

また、阿智村では、「住民一人ひとりの人生の質を高める持続可能な発展の村づくり」を進めるため、「村づくり委員会」が作られていた。5名以上の住民の主眼的な学びや地域づくりの取り組みを行う74団体が登録し、行政の力強いパートナーとして広く市民の諸課題に込めていた。また、予算編成への住民参加も推進されていて、住民が行政や議会に積極的に参加する仕組みが構築されていた。羽村市の将来の方向性について非常に示唆に富む視察となった。



阿智村の月川温泉周辺に咲く約5000本の花桃。4月下旬～5月の開花期には桃源郷のような見事な景観で、多くの観光客が訪れる

経済委員会

花と人でにぎわう

チューリップ日本一のまち〈富山県砺波市〉

羽村市の観光事業の一つに、春のチューリップまつりがある。40万本の色とりどりのチューリップで市内外から多くの観光客を迎えていて、年々充実したまつりになっている。

経済委員会では、さらなる充実へのヒントを求め、富山県砺波市のチューリップ観光事業を視察した。

**700品種を誇る
となみチューリップフェア**

砺波市は、富山県西部の扇状地に広がる砺波平野に位置し、庄川の豊富な水量で稲作の盛んな地として加賀百万石を支えたようである。田んぼの中に屋敷林で

囲まれた住居が点在する、典型的な「散居村」が広がる美しいまちだが、近年は商業施設の進出が著しくなってきたというようだ。その砺波市の特徴の一つは、チューリップ日本一のまちとして国内外に知られていることだ。毎年開催の4月下旬からの「となみチューリップフェア」は、会場の砺波チューリップ公園に、700品種300万本のチューリップが所狭しと咲き誇ること。

全世界に向けたPRで

広報宣伝には力を入れ、SNSやYouTube

で全世界へ発信したり、半年前には来年用のチラシやポスターを作成し、メディアへプレス発表するなど全国展開している。近年では、海外の現地旅行業者と協定を結ぶなどして、特に台湾からの誘客に成功した結果、約30万人の入場者数を数えた。また今年は、北陸新幹線が開通したこともあって、大変な賑わいだったとのこと。

と。公園に隣接するチューリップ四季彩館では、四季の花々を通じた常設展示やアニメキャラクターの子ども向け企画が好評。また、一年中チューリップが楽しめるよう、特別な手法で季節を問わず開花させていたのには驚いた。

**各種団体とボランティアが
バランス良く機能**

これらの事業は、砺波市と観光協会だけでなく、「公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団」にも管理委託している。また、ボランティアの力も見逃すことはできない。それぞれがバランス良く機



晩秋でも色とりどりの植物が美しい
四季彩館の庭園



年間を通してチューリップが
咲き乱れる四季彩館の館内で

また砺波市は、チューリップ球根の出荷量も日本一である。花を咲かせるだけでなく、種となる球根栽培にも力を入れ、品種も品質も日本トップクラスに。砺波市とは規模は違うが、これらのヒントを活かして、羽村市のチューリップも、春の風物詩としてますます多くの人に親しまれればと願う。



新鮮な食材が並ぶ近江町市場の一角。買い物客でにぎやかで活気がある



金沢市商業振興課で説明を受ける



迫力ある金沢駅



観光客を迎える
加賀友禅大使

金沢は、燃えている

金沢商店街活性化の秘訣 〈石川県金沢市〉

いま金沢市は観光客に沸いている。駅には着物姿の地元旅館・若女将がずらり並んで商工会議所全国大会参加者を迎え、味覚のスポット「近江町市場」飲食街の昼時は観光客の長い行列ができていた。新幹線開業で乗客数は前年の3倍。東京Ⅱ金沢間、4時間を2時間半への短縮効果はきめんだ。

人口45万人で羽村市の約8倍。面積は40倍、一般会計予算も8倍と規模は異なるが、いま一番元気の街であり、その商店街活性化の秘訣を知るのが視察の目的である。

豊富な補助メニューで

商店街活性化

市役所商業振興課・佐竹主事によると、金沢市56商店街のうち中心部には25。以前は、郊外型大型店の出店などで商店街の空洞化、空き店舗が課題だった。そこで、金沢駅から香林坊を経

て犀川大橋までの約3キロの中心商店街活性化対策として、「商店街応援メニュー」で13項目の支援策を推進している。

中心市街地出店促進事業では、商店街加盟店の空き店舗への出店に「賃料の4分の1、年50万円を限度で2年間の助成」などで小売、飲食業など約300店に利用された。2014年からは地域商店街へ出店する個店対象に、家賃、備品購入などへの補助金も新設した。

また、未来を担う35歳未満の若者向けの「起業チャレンジ若者支援」は2年間で限度額、約300万円。「まちなか出店サポートセンター」で相談に応じ、第1号はアクセサリーショップの開店だった。

若者の中心街回帰を狙い、大正時代の町屋を改修した「金沢学生のまち市民交流館」もオープン。課の商業振

興施策の予算は年間3億6000万円である。

羽村市ではどうか。補助金制度はなく今後、地方創生計画で検討。先日、マミー商店街に開店した鮮魚店には都の出店補助金を紹介したそう。創業支援施設としては「iサロン」がオープンした。

美食家集まれ、「食の祭典」

課題はホテルなどの不足と観光客向け料理の高騰だが、過渡的なものだ。加賀百万石の城下町として栄え、伝統工芸・文化を連綿として育んできた知恵が解決するだろう。

2月の1か月間、冬の味覚満載の第31回「食の祭典・フードピア金沢2016」が開かれ、全国から美食家が集まる。新幹線開業でよりイベントは盛り上がる、と地元では期待している。

厚生委員会

人や組織をつなぐ発達支援システム

〈滋賀県湖南市〉

厚生委員会と羽村市保育園協議会、羽村市私立幼稚園協議会のそれぞれとの意見交換会の中で、羽村市において乳幼児期における発達支援の充実というのが課題のひとつに上がった。そこで、厚生委員会では10月15日に滋賀県湖南市の発達支援システムの視察を行った。

早期発見・早期対応がカギ

湖南市が発達支援に力を入れて取り組む理由は、早期発見・早期対応は学齢期終了後、本人の自尊感情の持ち方（気持ちのコントロール）と深く関わっているからである。具体的な取り組みとしては、発達支援室とい

ITを利用した円滑な情報共有

発達支援ITネットワーク（KIDS）とは、保護者の同意が得られた児童については、対応した相談や支援、庁内のやりとりなどの記録をサーバーにすべて

10月16日、東大阪市役所を訪問。東大阪市の人口は49万7500人、高齢化率は26・5%（平成27年5月末現在）となっている。介護認定者数は2万6353人で、高齢者の5人に1人の割合となっており、そのうち認知症高齢者（自立度Ⅱ以上）は1万2523人との事だった。

認知症サポーターは2万人超え

東大阪市は平成17年から、さまざまな認知症対策事業を展開してきた。認知症サポーター養成の取り組みでは、平成27年6月末現在でサポーター数が2万人を超

認知症対策SOSオレンジネットワーク

見守りトライくん 〈大阪府東大阪市〉

え、きつずサポーターも約4000人。サポーターのフォローアップ研修も充実しており、サポーター数は人口の5%を目標にしているそうだ。

QRコードを利用したサポーター事業も展開

平成25年2月からは、「SOSオレンジネットワーク見守りトライくん事業」を社会福祉協議会が事務局となり、開始した。これは

ネットワークに登録している認知症高齢者が行方不明になったときに、協力団体である公共機関や企業などに高齢者の情報を発信し、早期保護できるようサポ



QRコードが印刷されたシールを持ち物などに貼る

トするシステムである。

登録された方は、QRコードが特殊な技術により印刷されたシールを靴や衣類、持ち物などに貼り、発見した方が携帯やスマートフォンなどで読み取ると事務局へ連絡ができる。実際にこのQRコードのおかげで早期保護できた事例もあるそうだ。

私たちの羽村市においても人口が減り高齢化が進む中、東大阪市の取り組みを参考として、羽村市全体で助け合っていく気運の醸成を改めて考えていく必要があると思った。

保管し、関係機関の円滑な連携や情報共有を図るものである。

発達支援室は専任の組織ではあるが、あくまでも「司令塔」であり「人や組織をつなぐこと」を役割としている。健康福祉・教育・産業等の関係機関の繋ぎ役として機能

し、湖南市の子どもの成長を見守っている。

厚生委員会としても羽村市の子育て現場からの声で、まだまだ改善しなければならない部分として深く受け止め、今後の委員会活動に反映していく。



滋賀県湖南市の障がい者就労支援センター



東大阪市内で説明を受ける



団地に隣接する保育園



団地の1階は高齢者施設

「いつまでも元気で活躍できる街」を体現

〈千葉県柏市〉

10月27日、「長寿社会の街づくり」として有名な柏市豊四季台団地を視察した。

柏市とUR都市機構、東京大学高齢社会総合研究所の三者が共同で進めている「住み慣れた場所で自分らしく老いることのできる街づくり」。理想的な長寿社会の在り方を目指して、そのシ

地域包括ケアから子育て支援まで

地域包括ケアについては在宅医療や訪問看護、訪問介護の拠点が、サービス付き高齢者住宅内に整備され、住宅内には子育て支援施設も設置されていた。

システムと実現のための体制づくりを開発し、提案、実践している団地である。豊四季台団地は1964年に建てられた古い団地で、その

全ての世代がターゲット

団地内には特養老人ホームも整備され、また、ファミリー層のための民間一戸建て住宅も建築中。保育園はもちろん、認定子ども園も整備されていた。あらゆる



豊四季台団地内に整備された特別養護老人ホーム



団地内を見学

しぎいかレンダー

● 3月定例会の予定 ●

日	月	火	水	木	金	土
2/14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	3/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

- 陳情◇…請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切
- 議 運…議会運営委員会
- 常任委…常任委員会（総務、経済、厚生）
- 予特（補正）…一般会計等予算審査特別委員会（補正予算）
- 予 特…平成28年度一般会計等予算審査特別委員会

* 会議の予定は変更になる場合があります。
詳細は議会事務局までお問い合わせください。

議会を見よう！知ろう！

～次の定例会は3月～

本会議でどんなことがどのように話し合われているのか、様々な手段で知ることができます。皆さんの暮らしに直結していることばかりです。ぜひご覧ください。

1 議場で傍聴 ーライブで！

当日、直接議場へおいでください。

2 ケーブルテレビで生中継

TCN 多摩ケーブルネットワークで、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。

3 インターネット で録画中継

開催日の3日後から、インターネットで録画中継を見ることができます。

4 会議録で読む

議会終了後2か月程度で会議録ができあがります。冊子または、羽村市公式ウェブサイトから見るすることができます。

羽村市公式ウェブサイト

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会

検索



編集後記

「立春」とは名のみの寒さであり、羽村市が誇る桜の開花が待ち遠しい季節となりました。

さて、われわれ議会だより編集委員会は今号から広報委員会と改名し、議会からの新たな情報発信に取り組んでまいります。

今号も市民の皆様にとって「わかりやすい・読みやすい・親しみやすい」紙面になっているでしょうか。今後も様々な視点から検討改善し、市民の皆様が「羽村市の現状」を的確に把握できる魅了ある「道しるべ」になるよう努力をしていきたいと思っています。

「ぎかいのトビラ」は、いつも開放されています。どうぞ扉を開けて、いつでもお立ち寄りください。

（印南記）

【広報委員】

濱中 俊男（委員長）
高田 和登（副委員長）
浜中 順 印南 修太
富松 崇 富永 訓正
大塚あかね 西川美佐保

発行／羽村市議会 編集／広報委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042(555)0889

Tel 042 (555) 1111 (内線 412～414、416)



「ぎかいのトビラ」は再生紙を使用しています。